

## 平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成 31 (2019) 年 4 月 18 日 (木)

#### 3 調査対象

小学校 第 4 学年、第 5 学年 (国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第 2 学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

|        |    |      |    |      |    |      |
|--------|----|------|----|------|----|------|
| 第 4 学年 | 国語 | 75 人 | 算数 | 75 人 | 理科 | 75 人 |
| 第 5 学年 | 国語 | 76 人 | 算数 | 76 人 | 理科 | 76 人 |

#### 5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

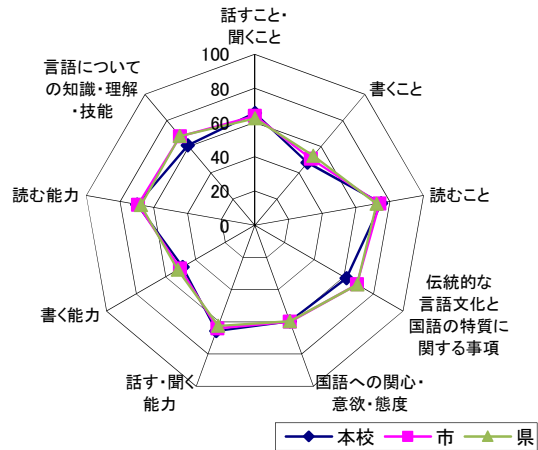
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 65.7 | 64.0 | 62.5 |
|     | 書くこと                 | 47.8 | 50.9 | 53.1 |
|     | 読むこと                 | 74.9 | 73.9 | 72.2 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 61.8 | 68.9 | 69.1 |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         | 59.7 | 59.9 | 59.7 |
|     | 話す・聞く能力              | 65.7 | 64.0 | 62.5 |
|     | 書く能力                 | 48.7 | 50.4 | 52.0 |
|     | 読む能力                 | 69.8 | 69.3 | 67.6 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 61.0 | 67.9 | 68.2 |



★指導の工夫と改善

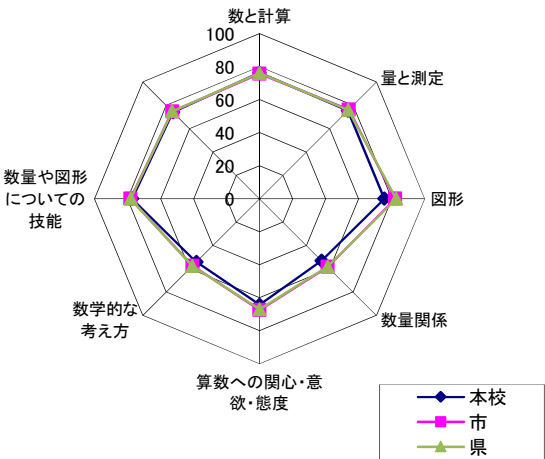
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                              | 今後の指導の重点                                                                                                                                     |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | ○領域の平均正答率は65.7%で、市や県の平均をやや上回っている。話の中心に気を付けて聞くこと、自分の考えを持ち、その理由を述べることに関する設問の正答率が高い。                                   | ・学級活動や朝のスピーチ等で、自分の考えを述べる機会を多く設けていくようにする。                                                                                                     |
| 書くこと                 | ●領域の平均正答率は47.8%で、市の平均より3.1ポイント低い。「指定された長さで文を書くことができる」について低い傾向がある。また、最終問題の作文に取り組む時間が足りず、無解答の児童が、25%近くいた。             | ・学習や活動の振り返りなどでも文を書く機会を設け、書くことに対して慣れさせていく。<br>・学校での作文指導だけでなく、テーマ作文や日記を書くなど復習を繰り返していくことで習熟を図る。<br>・時間配分を考えたテストの解き方について指導する。                    |
| 読むこと                 | ○領域の平均正答率は74.9%で、市の平均正答率73.9%とほぼ変わらず、「物語文」、「説明文」の内容の読み取りでは、ともに県、市と同程度の平均正答率であった。                                    | ・朝の読書の時間を充実させるとともに、積極的に図書室を利用するなどして図書に触れる機会を増やしていく。<br>・朝5分読解ドリルを継続して行い、内容を読み取る力をつけていく。                                                      |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ●領域の平均正答率は61.8%で、市の平均正答率68.9%より7.1ポイント低い。<br>●漢字の読みは県や市と同程度であるが、書く能力は大きく下回っている。<br>●ローマ字のつづりや国語辞典の使い方を理解していない児童が多い。 | ・ただ漢字を書く練習をするのではなく、習った漢字を使って文章を書く機会や使い方に合わせて漢字を書く練習をしていくことが必要であり、文章の中で正しく漢字を使うことができるようにしていく。<br>・国語以外の授業や生活の中でも繰り返し国語辞典やローマ字に触れ、活用していくようにする。 |
|                      |                                                                                                                     |                                                                                                                                              |

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分              | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算            | 76.4 | 75.8 | 76.1 |
|     | 量と測定            | 75.6 | 76.5 | 76.0 |
|     | 図形              | 75.6 | 82.1 | 82.7 |
|     | 数量関係            | 53.1 | 58.4 | 58.2 |
| 観点  | 算数への関心・意欲・態度    | 64.2 | 67.4 | 67.0 |
|     | 数学的な考え方         | 54.2 | 57.5 | 57.7 |
|     | 数量や図形についての技能    | 77.3 | 78.2 | 78.1 |
|     | 数量や図形についての知識・理解 | 74.2 | 74.8 | 74.9 |



★指導の工夫と改善

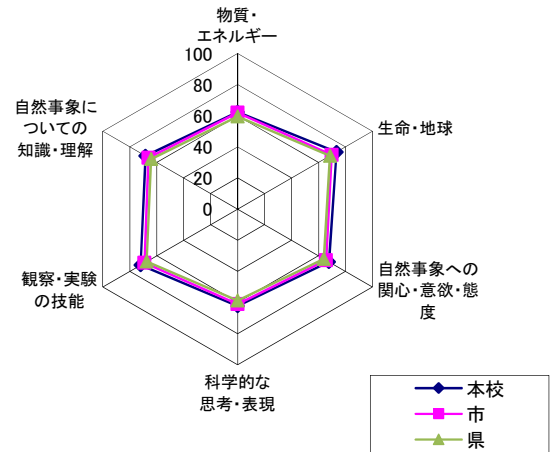
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算  | ○●平均正答率は76.4%で、市の平均を0.6ポイント上回っている。しかし、あまりのあるわり算や大きな数において、問題文から読み取り、立式をして解答を導くところにつまずきが見られた。<br>○四則演算や大きい数の計算の正答率は、全て市の正答率より高かった。                                                                  | ・授業始めに行っている計算練習(計算ストレッチ)を今後も継続して行い、計算力を高めていく。<br>・わり算の文章題において、問題の意図を読み取り、効率よく解く方法を身に付けていく必要がある。そのため、習熟度別学習を行い、児童のレベルにあった解き方を身に付けていく。                                                    |
| 量と測定  | ●平均正答率は、75.6%で市の平均より0.9ポイント、県の平均正答率より0.4ポイント下回っている。<br>●2つの道のりから差を求める問題における正答率は56.0%で、県の平均より13.2ポイント低かった。長さの大小関係が理解できていない。                                                                        | ・重さや長さの学習では、具体物の活用や、生活の中の場面を想起させることで、単位と実物の量を結び付けて実感を持って理解できるようにする。また他教科との関連を図り、実際に計測する体験を増やし、見当をもって問題に取り組めるような機会を意図的に設ける。<br>・図や絵から、長さや数値を読み取る問題を、授業や宿題などで取り上げることで力をつけていく。             |
| 図形    | ○ボールの半径から箱の長さを求める問題では、県の平均正答率より2.2ポイント高かった。<br>●領域の平均正答率は72.8%で、市の平均より約6.5ポイント、県の平均正答率より7.1ポイント下回っている。<br>●コンパスを使って正しい三角形を作図する問題では、県の平均よりも16.5ポイント低かった。未回答の児童が16%いることから、コンパスの使い方を理解していないことが読み取れる。 | ・3年生でコンパスの使い方を丁寧に指導する。学校独自のテスト(チャレンジテスト)で作図の問題を出題し、問題に慣れさせ定着を図る。<br>・作図の仕方やルールなどの基礎基本を身に付けるために、朝の学習や宿題などを通して問題を解かせていく。                                                                  |
| 数量関係  | ○□を使った文章問題を表した図の構造はとらえることができ、県平均よりも3.2ポイント高かった。<br>●領域の平均正答率は53.1%で、市の平均より5.3ポイント、県の平均正答率より5.1ポイント下回っている。<br>●記述式の問題では、市や県の平均正答率を下回っている。無回答が30%と高い。                                               | ・類似問題を繰り返し行い、問題場面を想像しながら、解答できるよう指導する。また、日常生活に密着した問題を数多く取り上げ、数学的思考力や判断力を育成していく。<br>・説明で用いる言葉や説明の順序を指導し、児童自身が自分の考えを書く活動を多く取り入れる。<br>・問題文の意味を正確に読み取ることができるよう、問題場面を図や絵、言葉などで表現する場を設けるようにする。 |
|       |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                         |

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 物質・エネルギー       | 62.4 | 61.9 | 59.4 |
|     | 生命・地球          | 73.3 | 69.8 | 68.5 |
| 観点  | 自然事象への関心・意欲・態度 | 67.6 | 65.6 | 63.9 |
|     | 科学的な思考・表現      | 62.2 | 61.0 | 58.8 |
|     | 観察・実験の技能       | 71.9 | 69.0 | 67.4 |
|     | 自然事象についての知識・理解 | 68.3 | 66.1 | 64.2 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                        | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | <p>○平均正答率が全体的に市・県を上回り、学習内容が確実に定着していると考えられる。</p> <p>○特に「光の性質」の鏡ではね返した光の進み方についてよく理解している。</p> <p>●磁石の極の性質に関する設問や磁石につけたゼムクリップの磁性についての設問では、正答率が、それぞれ64%、46.7%と低かった。</p> <p>●電気工事をする際にゴム製の手袋をする理由について、多くの児童が感電防止のためと答えて不正解となった。ゴムが電気を通さないことを理由に挙げて説明し、正答することができた児童の割合は24%と低かった。</p> | <p>・磁石の極の性質や磁化した鉄の性質・作用について、場面が変わっても類推できるよう、多様な体験活動を取り入れると同時に、学習したことを自分の言葉で説明する活動などを充実させ、理解を深めるようにする。</p> <p>・単なる事象の暗記ではなく、他の事象にも活用できる知識を身に付けるよう、「なぜそうなるのか」をしっかりと考える時間を設け、他者と話し合い学び合う活動を通して理解を深めるようにする。</p> <p>・記述式の設問に対して、答えなければならない要点を押さえ、学習した原理を使って説明する習慣付けを図る。</p> |
| 生命・地球    | <p>○ほとんどの設問で平均正答率が市・県を上回り、学習内容が確実に定着していると考えられる。</p> <p>○「昆虫の育ち方」のモンシロチョウの育つ様子についての設問では、県の正答率を12ポイント上回った。</p> <p>●「昆虫の育ち方」のモンシロチョウの成長の期間についての設問では、県の正答率より5.2ポイント下回った。</p> <p>●「植物の育ち方」で、ホウセンカの種の撒き方の正答率が市・県の平均を上回ったものの、42.7%と低く、十分定着しているとは言えない状況である。</p>                       | <p>・種のまき方については、種の種類、大きさについてまき方が違う理由を示しながら指導し、複数の違った種のまき方の理解を深める。</p> <p>・昆虫の育ちの観察では、卵から成虫になるまでの観察をする際、複数の幼虫を同時に同じ水槽で飼育すると、次々にさなぎになるため、実際より短い期間でさなぎになるように感じてしまうと考えられる。昆虫に限らず、生き物の成長の様子を観察する際には、1匹ずつを複数飼育して時間をかけて経過観察する体験を重ねるようにする。</p>                                  |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                        |

## 宇都宮市立御幸小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と学校でのできごとについて話をしている」の質問の肯定的回答が、県・市よりも多かったが、「家の人と学習について話をしている」の質問になると肯定的回答が少なくなった。家庭で学習についても話題にしていただけるよう学年だより等で喚起していく。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」について90%以上の児童が肯定的回答をし、県・市より上回っている。これから子どもの考えのよさを引き出し、称賛しながら支援していく。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意だ」の肯定的回答は、どちらも県・市より上回っている。友達同士の親和性が高く、学級が安心できる空間であると考えられる。

○「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答が96.1%であることから、家庭学習の習慣は身に着いてきていると考えられるが、「いいえ」と回答した子も3.9%と県・市よりも多い。

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」と「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合が県・市より上回っている。今後は家庭での勉強の内容の質を上げていけるように支援していく。

●「ふだん(月～金曜日)、1日どれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか」という質問で、十分な睡眠時間をとれている児童の割合が、市・県よりも少ない。規則正しい生活を心がけるように指導していきたい。

●「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよくおこなっている」の質問に対して、肯定的回答が県・市と比べやや低かった。毎日帰りの会等で1日の生活について振り返らせているが、授業の終末に時間を取り、しっかり振り返らせる活動の時間を取るようにしていく。その中で書く活動を重視するようにしていく。

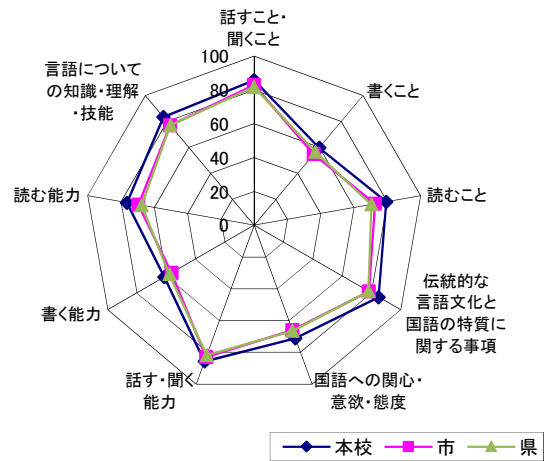
●「次の教科の問題を解く時間は十分でしたか」の質問についての肯定的回答は、県・市より下回っている。最後まで解くことができず、無回答になってしまった児童も多い。問題の読み方やテストの答え方についても併せて指導していきたい。

●宿題も十分にできていない子も少なくない。また、宿題以外の学習に取り組んでいる子も少ない。宿題だけでなく自主的に家庭学習に取り組めるよう、具体的な学習方法を示したり、家庭に協力を呼びかけたりして改善を図っていきたい。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 85.7 | 82.9 | 81.8 |
|     | 書くこと                 | 59.8 | 54.8 | 56.5 |
|     | 読むこと                 | 79.3 | 72.6 | 70.5 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 85.0 | 78.4 | 78.1 |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         | 71.1 | 66.0 | 66.4 |
|     | 話す・聞く能力              | 85.7 | 82.9 | 81.8 |
|     | 書く能力                 | 61.3 | 56.3 | 57.9 |
|     | 読む能力                 | 76.4 | 69.5 | 67.6 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 83.5 | 77.2 | 77.1 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

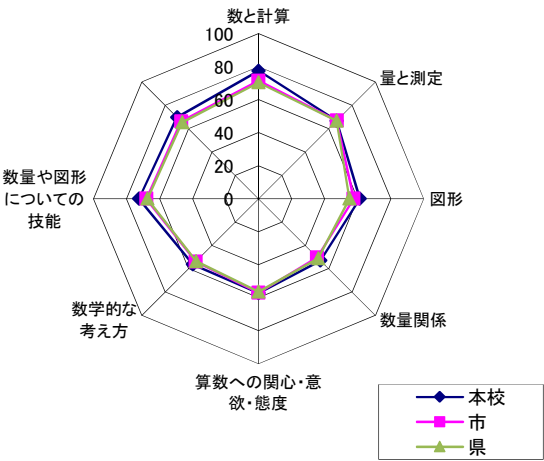
| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                       | 今後の指導の重点                                                                                           |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | ○平均正答率は85.7%で、市や県の平均を上回っている。<br>●「司会の役割として、参加者の発言の共通点をまとめる」設問では、県の平均正答率は上回ったものの、本校としてはやや低い傾向が見られる。                                           | ・話し合い活動の場を十分に設定するとともに、意見の共通点や相違点を明らかにしながら、問題を解決していく指導を充実させていく。                                     |
| 書くこと                 | ○平均正答率は59.8%で、市や県の平均を上回っている。<br>○資料を読み取り、概要をまとめる設問では、県の平均正答率を大きく上回った。<br>●情報を適切に読み取り、読み取った内容を理解し、自分の言葉で適切に書き表す設問では、県の平均は上回ったものの、やや低い傾向が見られる。 | ・資料を読み取り、自分の考えをまとめる場を意図的に設定し、繰り返し指導をしていく。<br>・他教科や特別活動においても、同様に資料を活用したり読み取ったりして、自分の意見をまとめる力を育てていく。 |
| 読むこと                 | ○平均正答率は79.3%で、市や県の平均を上回っている。<br>●説明文の読み取りに関し、段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取る設問で、県の平均正答率をわずかに下回った。                                                 | ・朝五分読解ドリルを活用し、文章読解力を向上させていく。<br>・まとまりを意識して文章を読む経験を多くさせ、段落の構成についての意識を高めていく。                         |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ○平均正答率は85.0%で市や県の平均を上回っている。<br>○漢字の読み書きでは、どちらもほとんど8割を超える正答率であった。<br>●2段落構成で文章を書く設問では、県の平均を5.8ポイント下回った。                                       | ・家庭学習での漢字練習を奨励し、引き続き指導していく。<br>・文章を読む際や書く際に、言葉と言葉との関係を意識できるように品詞の関わりを図で示すなど具体的に指導していく。             |
|                      |                                                                                                                                              |                                                                                                    |



宇都宮市立御幸小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分              | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算            | 77.5 | 71.5 | 70.4 |
|     | 量と測定            | 66.9 | 67.0 | 66.9 |
|     | 図形              | 61.3 | 57.6 | 55.0 |
|     | 数量関係            | 52.9 | 50.2 | 51.1 |
| 観点  | 算数への関心・意欲・態度    | 57.2 | 57.0 | 56.3 |
|     | 数学的な考え方         | 56.2 | 53.8 | 53.6 |
|     | 数量や図形についての技能    | 72.5 | 68.0 | 67.4 |
|     | 数量や図形についての知識・理解 | 69.8 | 66.3 | 65.4 |



★指導の工夫と改善

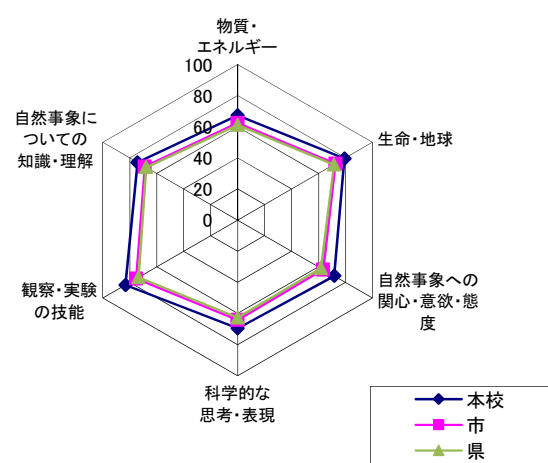
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                             | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                    |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算  | ○平均正答率は77.5%で、市や県の平均より6ポイント以上高い。<br>○●小数の仕組みについての問題は、平均正答率が92.1%と高いものの、小数を用いた重さの単位換算の問題になると平均正答率が59.2%と低く、県平均より約2ポイント下回っている。                                       | ・授業始めに行っている計算練習(計算ストレッチ)を今後も継続して行い、計算能力をさらに高めていく。<br>・4年生までの復習問題や、フォローアップ問題を活用して、計算の習熟を図っていく。                                                                               |
| 量と測定  | ○平均正答率は66.9%で、市や県の平均とほぼ同程度である。<br>○角に関する問題は、県平均より3ポイント上回っている。<br>○●複合図形の面積を求める問題は、平均正答率が約83%で、県平均より7ポイント高い。しかし、教科書のおよその面積を選ぶ問題は、平均正答率が27.6%と非常に低く、県平均より10ポイント以上低い。 | ・重さや長さ・面積の学習では、具体物の活用など量感を養うような体験的活動を多く取り入れる。また、日常生活の場面を想起し、単位と実物の量を結び付けながら考えさせることにより、実感をもって理解できるようにする。                                                                     |
| 図形    | ○平均正答率は61.3%で、市や県の平均より3ポイント以上高い。<br>○四角形の対角線の性質についての問題は、平均正答率が78.9%で、県の平均より19ポイント以上高い。<br>●ひし形の作図の問題は、県の平均正答率よりも7ポイント以上低く誤答・無回答率を合わせると27%になるなど、苦手意識が高い傾向にある。       | ・コンパスや分度器の使い方を再確認し、朝の学習や宿題などで作図をする機会を増やしたり、作図の仕方を個別に教えたりすることで、道具を適切に使って正しく描くことができるようにする。<br>・具体物を活用した授業の展開を工夫し、知識・技能の定着を図る。                                                 |
| 数量関係  | ○平均正答率は52.9%で、市や県の平均より約2ポイント高い。<br>○四則の混じった式の計算順序を選択する問題は、県の平均より約8ポイント上回っている。<br>●折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する記述式の問題は、平均正答率が23.7%と低く、無回答が31%以上あった。               | ・他教科でも算数と関連付けて、表やグラフから分かることを考える活動を多く取り入れ、表やグラフを正しく読み取り、必要な情報をもとに問題を解決する力を育てる。<br>・記述式の問題に対しての苦手意識をなくすため、自分の考えや学習の振り返りを書く時間を十分確保するとともに、自分の考えを説明したり友達に伝え合ったりする活動を意図的に取り入れていく。 |
|       |                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                             |

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 物質・エネルギー       | 67.3 | 62.4 | 61.1 |
|     | 生命・地球          | 79.2 | 72.5 | 71.4 |
| 観点  | 自然事象への関心・意欲・態度 | 71.6 | 63.4 | 61.7 |
|     | 科学的な思考・表現      | 69.5 | 64.1 | 62.6 |
|     | 観察・実験の技能       | 83.2 | 75.2 | 73.5 |
|     | 自然事象についての知識・理解 | 74.3 | 68.8 | 67.8 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                   | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | ○全体として平均正答率が市・県を上回り、学習内容が確実に定着していると考えられる。<br>○「水のすがた」において、グラフから水の状態を読み取る設問の正答率が76.3%で、県の平均を約22ポイント上回った。<br>●「水のすがた」の沸騰している水の状態に関する設問の正答率が32.9%と低く、県の平均を約9ポイント下回った。<br>●「ものの温まり方」の金属の温まり方に関する設問では、正答率が57.9%と低く、県の平均を約7ポイント下回った。さらに、水の温まり方の学習内容を使って事象を説明する設問の正答率も28.9%と低い。 | ・水の三態に関しては、一般的に定着が難しいとされているため、より一層配慮する必要がある。特に湯気を気体と考えてしまう児童が多いため、多種多様な実験を通して素朴概念の変容を図ると同時に、「水のゆくえ」や「もののあたたまり方」など他の学習に際にも繰り返し問いかけることで知識の確実な定着を図るようにする。<br>・実際に実験したものについては、記憶をもとに正しく解答できているので、理解を支援するためにも、今後も実験や体験活動を意図的に取り入れるようにする。<br>・記述式の設問に対して、過不足なく答える力を身に付けさせるため、答えなければならない要点を押さえ、学習した原理を活用して、理科特有の用語を使って説明する習慣付けを図る。 |
| 生命・地球    | ○平均正答率が全体として市・県を上回り、学習内容が確実に定着していると考えられる。<br>○「月と星」の星座の観察の仕方を説明する設問では、正答率が79.6%で、県の平均を17ポイント上回った。<br>●「月と星」の観察カード内の方位を推測する設問では、県の平均正答率を大きく上回っているものの、46.1%と低い。                                                                                                            | ・地球から見た月や星の位置、宇宙から見た月や星の位置などの把握や照合、互いの位置関係の把握などについては、具体物を使って支援する必要がある。模型やコンピュータシミュレーションなどを使って、いろいろな角度から見るイメージをつかませると同時に、空間内の座標を把握する力を育てるために、視点移動をして考える活動を意図的に取り入れる。さらに、類似問題を数多くこなすことで理解を深められるようにする。                                                                                                                         |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |



## 宇都宮市立御幸小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」という質問に対する肯定的回答は96.2%であり、県や市の平均より5ポイント高い。また、「宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答も68%であり、こちらも市や県に比べて4ポイント高い。家庭学習の習慣が身に付き、自主学習に意欲的に取り組もうとする力が育っている。宿題の出し方を工夫したり自主学習の方法を紹介したりして、引き続き意欲の向上につなげていく。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という質問に対しての肯定的回答が、県や市と比べて5ポイント以上高い。今後も互いの意見を交換しながら学び合っていく活動を重視し、授業の中でペア学習やグループ学習を多く取り入れるなど、積極的に話し合いの場を設定していく。

○「友達同士で話し合っってクラスの決まりなどを決めていると思う」や「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の設問についての肯定的回答は97.4%であり、県や市を上回っている。学級への所属意識や役割への責任感、使命感の強さが感じられる。また、友達と良い関係を築きながらよりよい学校生活を送りたいという意欲も感じられる。引き続き、クラスの一員・学校の一員であるという意識をもたせるとともに、様々な活動を通して友達と協力しながら活動することのよさを味わわせたい。

●「できるだけ自分一人の力で解決しようとしている」の肯定的回答は93.6%と高かったが、「難しい問題にであうとよりやる気が出る」「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」の質問では約60%にまで下がり、県や市よりも下回っている。授業の中で積極的に自力解決の場を設定し、分からない問題に対して最初に見通しを立てたり答えを見出すまでの手順や技術を身に付けたりすることで、意欲をもって取り組めるようにしていきたい。また、不思議なことや分からないことについて調べ、自分で解決する楽しさを感じられる授業の工夫を行う。

●「家の人と学校でのできごとについて話している」や「家の人と将来のことについて話すことがある」「家の人はほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定割合は県や市の割合を下回った。高学年という発達段階では自分のことを話しながらない児童もいると考えられるが、行事の振り返りや宿題の工夫など、家の人と話ができる機会を意図的に設ける。

●「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビ、ビデオ、DVDを見ていますか」、「1日当たりどれくらいテレビゲームやパソコンゲームをしていますか」では、3時間以上と答えた児童が県や市に比べ多くみられた。今後も家庭と連携しながら児童の生活習慣づくりに努めていく。

## 宇都宮市立御幸小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組              | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                     | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                           |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着 | <ul style="list-style-type: none"> <li>音読活動の充実</li> <li>計算ストレッチの実施(算数の授業)</li> <li>朝5分読解ドリルの活用</li> <li>漢字50題・計算25題チャレンジテストの実施(年3回全校実施)</li> <li>レベルアップ教室の実施(朝の学習)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>5年生の漢字の読み書きや計算は、県や市の平均正答率を3ポイント以上高く、基礎的内容はおおむね定着している。4年生では、県や市の平均正答率と比べ同程度または下回っているものがあった。</li> <li>2学年とも、どの教科・領域においても個人差が大きく見られた。</li> </ul> |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                             | 重点的な取組                            | 取組の具体的な内容                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自分の考えを述べる問題や式の意味を説明する問題では無回答が多く見られ、平均正答率が県や市より下回るものがあった。 | 児童一人一人が自分の考えをもち、自分なりの方法で表現する活動の充実 | 授業において、どの児童も自分の考えを持てるように、発問やワークシートを工夫する。また、ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、自分の考えを伝え合い学び合える場を設けることにより、表現力を伸ばし、考えを広げ深められるようにする。 |